

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 産業教育振興設備整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 高校教育課 産業教育係 電話番号：058-272-1111(内8662)

E-mail：c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 165,984 千円 (前年度予算額： 165,984 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	165,984	0	0	0	0	0	0	0	165,984
要求額	165,984	0	0	0	0	0	0	0	165,984
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

岐阜県の産業界の次世代を担う人材を育成するために、県立高校において必要な実験・実習装置や設備を整備する。

(2) 事業内容

- ・産業教育設備の整備・更新
- ・故障した機器の修繕
- ・更新対象の老朽化した機器の廃棄

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
修繕料	10,000	故障した設備、装置等の修繕等
役務費	5,000	旧設備等の廃棄手数料
保険料	50	自動車自賠責保険料
使用料	700	ソフトウェアライセンス契約
工事請負費	2,500	設備、装置等の設置に伴う工事
備品購入費	147,699	産業教育設備、装置、備品の購入
公課費	35	自動車重量税
合計	165,984	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

・第4次岐阜県教育ビジョン

基本方針1 んふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成

目標5 産業教育の推進

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

産業社会や技術の進展に応じた専門性の基礎・基本を確実に身に付けるために必要となる実験・実習用機器を継続的・計画的に導入する。また、産業教育設備、装置の故障等に速やかに対応し、生徒の授業環境を維持する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

突発的な故障等にも対応しながら更新(導入)、修繕を行うため、指標の設定になじまない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 重点整備において導入した主な設備（装置等） 数値制御装置（加茂農林、高山工業）ほか 基礎的設備として導入した主な設備（装置等） MACノートPC（岐阜商業）、制動力試験装置（岐南工業）、縫製用ミシン（岐阜城北）、冷凍冷蔵庫（恵那農業）、電子計算組織（大垣商業、大垣工業ほか）、フォークリフト（加茂農林）ほか
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 重点整備において導入した主な設備（装置等） 数値制御装置（加茂農林） 汎用旋盤（中津川工業、多治見工業）ほか 基礎的設備として導入した主な設備（装置等） トータルステーション（中津川工業）、純水製造装置（飛騨高山）、家庭情報実習装置（東濃実業）、電子計算組織（岐阜工業、土岐商業、益田清風ほか）、電子天秤（郡上）、プロジェクタ（岐阜城北）ほか <p>指標① 目標： 実績： 達成率： %</p>
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> 重点整備において導入した主な設備（装置等） 数値制御装置（飛騨高山）、食品製造実習装置（加茂農林）ほか 基礎的設備として導入した主な設備（装置等） 衣類乾燥機器（関有知）、バックホー（加茂農林）、車椅子（揖斐）、ドラフター（中津川工業）、デジタルオシロスコープ（大垣工業）、冷凍冷蔵庫（恵那農業）、電子計算組織（大垣養老、飛騨神岡ほか）、マイクロバス（恵那農業）ほか <p>指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	将来、岐阜県の産業界で活躍できる人材を、継続的に育成するため。
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 3	産業教育設備の更新により、最新の専門的な知識や技術・技能を習得するとともに、ものづくり競技会等で成果をあげた。
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	設備整備にあたっては、老朽化が進んでいる既存の実験・実習装置に更新の優先順位を考慮し、計画的している。

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 設備の老朽化が進んでおり、老朽化した設備の更新・維持・補修に関する予算が不足している。引き続き予算措置を講ずる必要がある。 また、国庫補助事業(スマート専門高校整備事業)としてデジタル実習装置を導入したが、単年度事業であることから今後の機能維持、更新等に関する予算措置を計画的に進めておく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 次世代の産業人を育成するために、これまで計画的に整備・更新を進めてきた。今後も計画に基づいた整備・更新を進めることが必要である。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	